

浦ノ内湾における赤潮発生予察情報 22-3

【概要】

- ・ 令和4年6月13日の環境調査で、鳴無及び中学校前定点におけるシャットネラ属の細胞密度が今季初めて1 mLあたり10細胞を超えました。
- ・ これまでの知見から、細胞密度が10細胞/mLを超えると、平均1～2週間で漁業被害が強く懸念される密度（100細胞/mL）に達する傾向があります。
- ・ 現時点で、深度5mにおける水温は23.4℃であり、シャットネラ属が急激に増殖する可能性がありますので、十分注意してください。
- ・ 今後、当該プランクトンにとって好適な環境が続けば、6月下旬ごろに赤潮が発生する可能性が高いと考えています。

【赤潮発生予察について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予察マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予察情報を提供することとしました。

【シャットネラ属の赤潮発生予察マニュアル】

- ① 海水中のシャットネラ属の遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が10細胞/mLを超えると、平均1～2週間で100細胞/mL以上に増殖
(これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長41日)
- ③ 深度5mの水温が22℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

※この予察情報は、本年度から提供を開始するもので、今後精度向上につとめていきます。予察どおりにならないことも考えられますので、現場の状況に十分注意して、養殖作業を行ってください。

以上